

学校法人京都文教学園  
京都文教短期大学  
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 京都文教短期大学の概要

設置者	学校法人 京都文教学園
理事長	富田 謙三
学 長	安本 義正
A L O	森井 秀樹
開設年月日	昭和 35 年 4 月 1 日
所在地	京都府宇治市槇島町千足 80

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ライフデザイン学科		50
食物栄養学科		120
幼児教育学科	幼児教育専攻	250
	合計	420

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	家政学専攻	30
専攻科	児童教育学専攻	30
	合計	60

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

京都文教短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 24 年 7 月 2 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「仏教精神に基づく人間形成」を建学の精神として明確に掲げ、学則に教育理念を明確に示している。建学の精神に基づき学科ごとに教育研究及び人材育成の目的を明確にし、学内外に対して表明している。学長のリーダーシップの下、全教職員が一丸となって、教育目標達成のため、学生を中心とした教育実践が行われ、その学習成果の点検に努力している。教育の効果を改善するための査定方法を有しており、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、授業改善等について、PDCA サイクルに基づいた査定を行っている。学習成果は、建学の精神と学科・専攻課程の教育目的・目標に基づいて明確に示されている。

自己点検・評価の実施については、自己点検・評価委員会を組織し、各学科教員と事務職員が連携して全教職員で行っている。

学科の専攻ごとに、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が定められ、質の高い教育の仕組みを構築するため、「学習成果を焦点にした質保証のための査定サイクル」の仕組みを導入している。教育課程は学科ごとの教育課程編成・実施の方針に対応しており、「総合教養科目」と「専門科目」が基礎から応用へ体系的に編成されている。学習成果については、各学科で修得すべき専門的学習成果（専門的な知識・スキルとその理解）と汎用的学習成果（社会人として必要な技能と態度）を定め、単位取得と GPA 値による測定が行われている。キャリア教育については、「社会人キャリア力育成アセスメント」を入学前の 12 月、1 回生の 12 月、2 回生の 12 月に実施するなど、積極的な活動を行っている。授業評価アンケート、FD 研修会、授業参観等が全学的に実施されており、改善への努力は十分に認められる。

教員は、入学時から学生十数人をアドバイザーとして担当し、学生の学修に助言し、生活相談に応じる体制が整えられており、個々の学生を支援している。就職については、各学科ともに高い就職率を達成しており、就職支援体制が充実している。

学生の支援として、短期大学独自の奨学金（給付制）が設けられており、経済的に学修困難な学生への配慮が行なわれている。また、地域との連携として、子育て支援

室「ぶんきょう にこにこルーム」を設け、学生の地域貢献と教育実践を支援している。

専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。専任教員の職位は、学位と専門性から適切に配置されている。また、助手や補助職員の教育的役割も有効に機能している。

研究成果についても紀要、教員研究教育要覧等を発行し一定の成果をあげている。

校地・校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足している。施設設備として、学生食堂、コミュニティ・サロン等、各種キャンパス・アメニティが整備され、また、障がい者支援のために全学的なバリアフリー化が進むなど、教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設設備が充実している。学内 LAN 及び演習や実習で利用するコンピュータ室が完備されており、学生のコンピュータ関連の積極的な活用を促すなど、学生の学習意欲・学力向上に取り組んでいる。

学生数が毎年安定的に確保できており、収支の状況は均衡して推移している。教育研究経費、教育研究用の施設設備及び図書資金への分配については適正に運用されている。

また、「京都文教学園・中長期経営改善計画」が策定されており、同計画に基づいて単年度の事業計画・予算が作成され、意見を集約し決定し、適切な管理運営の下、事業が実施されている。教育情報及び財務情報は、法令に基づき適切に公開されている。

理事長は、学校法人の運営全般についてリーダーシップを発揮している。学長は建学の精神に基づき、自ら教科書を作成し、授業開始前に黙想を取り入れるなど、教学運営の職務遂行に努めている。監事は業務及び財産の状況について適切に監査し、また、理事会及び評議員会は適切に運営されており、ガバナンスが適切に機能している。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

#### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神を具現化するため、毎週水曜日に指月アワーと称し、講演会やセミナーの実施、また、学科ごとに教員や在学生との交流を計画的に行っている。

[テーマ B 教育の効果]

- 「社会人キャリア力育成アセスメント」を入学前と在学中に 3 回にわたり実施し、

社会人基礎力と社会常識力の成長度を評価している。これにより、入学予定の学生への入学前評価と学習意欲の継続及び動機付けを試みている。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

### [テーマ A 教育課程]

- 幼児教育学科では、「保育・教職実践演習（幼稚園）」において、PC履修カルテ入力システムを導入し、学生・教員双方向から学習成果を確認できるシステムを導入している。

### [テーマ B 学生支援]

- ライフデザイン学科、食物栄養学科、幼児教育学科ともに過去3か年就職率が高いことは、優れた指導体制の結果である。また、「卒業生アンケート」で、卒業後の進路について多くの学生が「希望通りの進路が決定し満足している」、「第一希望ではないが、ある程度満足している」と回答し、高い評価となっている。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

### [テーマ A 人的資源]

- 教育研究活動において、外部研究資金の採択数も多く、当該短期大学独自の特別研究費助成制度を設け、研究支援活動を行っている。多くの教員が外部委員等の社会貢献活動を行い、地域に密着した教育研究活動を行っている。

### [テーマ B 物的資源]

- 講義室、実習・演習室、レッスン室並びに実験室等には、各学科の教育課程編成・実施の方針に従った施設と備品が重点的に整備され、各学科の教育方針に基づく実践的な授業を実施できる体制が整っている。

### [テーマ D 財的資源]

- 学生数確保が安定的にされており、収支の状況は均衡して推移している。資産は適正に運用、管理されており、短期大学及び法人全体として、健全な財務体質を維持している。

## 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

### [テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は、自ら「自校史を学ぶ」の教科書を作成して授業を行っており、全ての授業の前に黙想を取り入れるなど、リーダーシップを発揮して教職員を牽引している。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準

の評価結果（合・否）と連動するものではない。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ B 学生支援]

- 授業内容についての授業担当者間での意思の疎通、協力、調整については、学科によりその対応に違いがある。学科レベルでの FD 活動の推進が課題である。
- 学習成果を焦点とした質保証のための査定サイクルの仕組みを作り上げ、教育の向上・充実に努めていると認められる。しかし、さらに汎用的学習成果と専門的学習成果を具体化し、到達目標（学科レベル、科目レベル）として明示するなど、サイクルを機能させ、見直し、修正を継続させることが望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神である「仏教精神に基づく人間形成」が明確に示されており、建学の精神に基づく教育理念を明確化し、授業科目「自校史を学ぶ」や授業開始前の黙想の実施等、十分に教育の中で実践されて建学の精神が確立されている。

建学の精神に基づき、3学科ともに教育目的を明確に示し、定期的な点検が実施されるとともに、必要な専門知識と技術の習得のため、専門資格・免許の取得を学習成果に位置付けるなど、教育目的・目標が確立している。

学科・専攻課程の学習成果は、建学の精神と学科・専攻課程の教育目的・目標に基づいて明確に示され、「カレッジライフ」において、各学科で修得すべき専門的学習成果と汎用的学習成果として記載している。学習成果は、単位取得とGPA値を活用し測定しており、社会人基礎力と社会常識力の成長度については、「社会人キャリア力育成アセスメント」を入学前の12月、1回生の12月、2回生の12月に実施し評価している。

教育の質保証を行うために、法令順守に努めるとともに、本協会の示す「学習成果を焦点にした質保証のための査定サイクル」の仕組みを導入している。学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針、授業改善等についてPDCAサイクルを用いて教育の向上・改善に努めている。

自己点検・評価に積極的に取り組むために、自己点検・評価委員会を組織している。自己点検・評価の実施については、自己点検・評価委員会を中心に各学科教員と事務職員が連携して全教職員で行っている。また、FD・SD活動を通して全教員が質を保証できる環境整備に努力するとともに、点検・評価の成果を日常の教育支援及び学生支援の改善に活用するように心がけており、自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

各学科の学位授与の方針は学習成果に対応し、教育課程は学科ごとの教育課程編成・実施の方針に対応しており、「総合教養科目」と「専門科目」が基礎から応用へ体系的に編成されている。

学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針は、「学習成果を焦点にした質保証のための査定サイクル」等の PDCA サイクルを用いて不断の改良を試みている。また、学習成果そのものも PDCA サイクルを使って、その具体性、達成可能性等の検討を行っている。

入試要項に入学者受け入れの方針を示し、学校案内に学科の教育目標、就職状況等の情報を掲載して、受験生・高校・保護者に進路選択のための十分な資料を提供している。

入学者受け入れの方針も PDCA サイクルを使って、繰り返し点検している。

学期前のオリエンテーションでは、学習支援のために「カレッジライフ」とシラバスを使って、学習の動機付けや学生個々の目標実現のためのガイダンスが行われている。

教員は、入学時から学生十数人をアドバイザーとして担当し、学生の学修に助言し、生活相談に応じる体制が整えられており、個々の学生を支援している。

学友会は、学生自治により学友会総会や「指月祭」(学園祭)等の各種行事を行っており、各種クラブ活動も学友会傘下で活発に活動している。

学生食堂、コミュニティ・サロン等、各種キャンパス・アメニティが整備され、また、障がい者支援のために全学的なバリアフリー化が進んでいる。

日本学生支援機構以外に短期大学独自の奨学金(給付制)が設けられており、経済的に学修困難な学生にとって大変心強い制度である。

子育て支援室「ぶんきょう にこにこルーム」を設け、学生が地域に根ざした子育て支援と教育実践する社会的活動を支援している。

平成 24 年度は、各学科とも就職希望者に対して高い就職率を達成しており、就職支援体制が充実している。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

人的資源に関しては、各種資格養成も踏まえて組織されており、専任教員数は短期大学設置基準を満たしている。専任教員の教育研究活動については、専任教員と事務職員とで構成される教育研究活動委員会が組織され、研究に関する規程の見直しが進んでいる。教員の研究業績としては、多くの論文発表及び学会発表が行われている。また、国際的活動についても実績があるほか、精力的に社会的活動が行われ、地域に密着した活動が行われている。研究資金としては、個人研究費のみならず、外部資金の獲得並びに短期大学独自の「京都文教短期大学特別研究費助成」が提供されており、教育研究活動が推進されている。

FD 活動については、「京都文教短期大学 FD 委員会規程」を定め、規程に基づいて設置された FD 委員会を中心となり、教育の改善と教育環境の向上に努めるとともに、年度ごとにその実施状況を報告書としてまとめ、全教員でその内容を共有している。

事務組織は、「学校法人京都文教学園事務組織及び事務分掌規程」に基づき構成されている。専任事務職員は、各課の事務分掌の職務遂行に必要な専門知識、能力を有している。実習職員に関しては、実習指導委員会及び学科会を通じて、専任教員と緊密



に連携している。教職員の就業に関する諸規程は整備され、適正に運用されている。就業に関する諸規程は、各学科長、各部署、図書館に設置されており、教職員はいつでも閲覧できる体制が整えられている。

校地面積及び校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足している。校舎は障がい者に対応できるように、バリアフリー化が進められ、収容人数の多い講義室においては、車いす利用者の場所も確保されている。講義室、演習室、実験・実習室等は、適切に整備されている。講義室・演習室には、プロジェクターやピアノ等の教育課程編成・実施に必要な備品等が整備されている。

学内 LAN 及び演習や実習で利用するコンピュータ室が完備されており、学生のコンピュータ関連の積極的な活用を促すなど、学生の学習意欲・学力向上に取り組んでいる。

施設は各規程を定め、適正に維持管理している。耐震化の対象として、時習館（クラブボックス棟）、月照館（短期大学総合実習棟）、サロン・ド・パドマ（学生厚生施設）の施工が完了し、施設面での機能向上を図っている。また、宇治市と連携し、毎年教職員対象の防災訓練及び避難訓練が実施されている。

学生数が毎年安定的に確保できており、収支の状況は均衡して推移している。教育研究経費、教育研究用の施設設備及び図書資金への分配については適正に運用されている。法人全体における財政基盤の安定を柱とする「京都文教学園・中長期経営改善計画」が策定されており現状分析がなされ、短期大学の将来像も明確であり、経営情報はウェブサイト上で公開されている。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、学校法人の運営全般について、リーダーシップを発揮している。常務理事会、学園運営協議会は、理事長が招集し、教育研究・地域連携事業等の現状と課題等について、全員で検討、合意形成をしている。理事会は、理事長が招集し、寄附行為に基づいて適切に運営されている。理事の選任及び職務等についても適切に運営されている。

学長は、建学の精神に基づき自ら教科書を作成し、「自校史を学ぶ」を必修科目とし、総合教養科目に位置付けた。さらに、建学の精神の具現化として、授業開始前に黙想を取り入れた。教授会は規程どおり開催され、教学面を中心に審議しており、学長のリーダーシップの下、適切に運営されている。

監事は、寄附行為に基づいて、業務及び財産の状況について適切に監査を行っている。毎会計年度、監査報告書を作成し、理事会、評議員会に提出している。監事の選任及び職務についても適切である。

評議員会は、寄附行為に基づいて開催されており、理事長の諮問機関として適切に運営されている。評議員会は理事の定数の 2 倍を超える評議員で組織されており、評議員の選任及び職務についても適切である。

「京都文教学園・中長期経営改善計画」が策定されており、同計画に基づいて単年度の事業計画・予算が作成されている。関係部門の意見を集約し、適切な時期に決定

されている。決定された事業計画・予算は関係部門に速やかに指示・周知されている。日常の業務も問題なく行われており、管理者のチェック機能も働き適正に執行されている。理事長への報告も定例的に行われている。教育情報及び財務情報は、法令に基づき適切に公開されている。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 教養教育の取り組みについて

### 総評

総合教養科目の目標を、社会人基礎力を養成するための「多様な視点から事象を観察し、自分自身で考え、的確に判断・行動する能力を育成するとともに、円満な人間関係を構築して心豊かな人間性を育むこと」と「カレッジライフ」に表明し、明確な目標が示されている。

総合教養科目は、「仏教精神に基づく人間育成」を涵養するための「建学の精神」、現代社会について考える「現代の教養」、大学で学ぶための基礎スキルを身に付ける「学びのスキル」の 3 領域が設定され、基礎スキルの習得と幅広い学びの領域が準備されている。

総合教養科目の履修については、学則の卒業要件において 18 単位以上を修得することを明記し、「カレッジライフ」で履修方法が示されているが、平成 25 年度から、従前の学科ごとの専門性により履修制限する細かな履修条件は設けず、3 領域にわたって履修するように改善が図られた。

総合教養科目は、科目ごとにシラバス上で学習評価の方法を示し、期末試験、レポート等を総合的に評価し単位認定している。また、3 学科に共通する学習成果を測定・評価するために「社会人キャリア力養成アセスメント」を実施している。平成 23 年度入学生の結果は、社会常識力（日本語力、社会マナー、時事問題、計算力）が低かったことから、社会人としてのマナーを身に付け、常に時事問題に関心を持たせるため、平成 25 年度から、「学びのスキル」を「キャリア教育」に改変して、「ビジネスマナー（1 単位）」と「新聞を読む（2 単位）」を選択科目として新設し、さらに「初年次演習（基礎）」を卒業必修科目として位置付ける改善が計画されている。

このように、「学位授与の方針（DP）の PDCA サイクル」、「教育課程編成・実施の方針（CP）の PDCA サイクル」に基づいた点検・評価が行われ、次のステップの改善が計画されている。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 教養科目の目的を、従来の「豊かな教養と正しい倫理観、高い知性を養成する」

ためだけでなく、学位授与の方針に示された「問題発見・解決力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク」等の「社会人基礎力」を身に付けた社会人として養成するために「総合教養科目」を位置付けている。

- 総合教養科目の評価は、科目ごとに期末試験、レポート等を総合的に評価し単位認定されるが、3学科に共通する学習成果を測定・評価するために「社会人キャリア力養成アセスメント」を実施し、その結果を学生やアドバイザー教員にフィードバックして、就職・進学の情報や、学生個々の弱点を分析して学習支援に活用している。
- 教育の効果を改善するための査定サイクルの仕組みを導入し、「学位授与の方針（DP）のPDCAサイクル」、「教育課程編成・実施の方針（CP）のPDCAサイクル」に基づいた点検・評価に努め、総合教養科目の改善が計画されている。特に、「新聞を読む」を科目として位置付けたことは、新聞を読まない学生が多い現代において優れた取り組みである。

## 地域貢献の取り組みについて

### 総評

地域貢献の取り組みは積極的である。管轄は地域連携委員会、事務は地域連携室が担い、建学の精神に基づいて地域社会に大学を開放し、地域住民の生涯学習ニーズ実現のために公開講座等を企画・実施している。

平成22年2月に締結された「宇治市と京都文教大学並びに京都文教短期大学との連携協力に関する協定書」を契機として、地域の子育て支援を柱にした取り組みが実施され、開学50周年（平成22年9月）を記念した新校舎「月照館」に子育て支援室「ぶんきょう にこにこルーム」を開設した。子育て支援室は、地域に根ざした子育て支援と学生・教職員の教学、教育実践や実習・研修・研究を行うことを目的に機能し、利用も運営も地域に開放され、平日は子育て親子をはじめとする多くの地域住民の姿が学内でみられるという文字通り地域に開かれた短期大学（大学も含む）である。

特に、平成24年12月の「ぶんきょう にこにこルーム」来室親子や地域住民、幼児教育学科を中心にした学生・教職員が共に交流しながら鑑賞・参加した参画型コンサートは、学生55人を含む100人規模の催しとなった。

「ぶんきょう にこにこルーム」は運営を地元で開放し、住民で組織する「北槇島地域協議会」が宇治市・京都府の補助と当該短期大学の支援を受けて、官・民・学の協働による運営を進め、平成24年度からは特定非営利活動法人「まきしま絆の会」が、宇治市地域子育て支援拠点ひろばとして事業委託を受け運営している。運営に当たり、毎月定例で地域連携室職員と「まきしま絆の会」担当者、「まきしま絆の会」が雇用する運営スタッフによる打ち合せ会議を行い、「ぶんきょう にこにこルーム」が地域の子育て親子の居場所として機能できるよう努めている。学生は、幼児教育学科を中心にゼミや授業の空き時間等に参加し、子育て親子と直接触れ合う体験を通じて多くを学ぶことができ、学生支援にも効果をもたらしている。

また、来室者からの育児相談や悩みなどについて、地域の運営スタッフが専門の教

員に相談しながら対応していることも、スタッフの研鑽の場として地域住民の生涯学習に貢献している。

#### **当該短期大学の特色が表れている取り組み**

- 「ぶんきょう にこにこルーム」は、運営を地元開放し、住民で組織する「北檜島地域協議会」が宇治市・京都府の補助と当該短期大学の支援を受けて官・民・学の協働で運営を進めている。
- 平成 24 年度からは特定非営利活動法人「まきしま絆の会」が、宇治市地域子育て支援拠点ひろばとして事業委託を受け運営しているが、運営に当たって、毎月定例で地域連携室職員と「まきしま絆の会」担当者、「まきしま絆の会」が雇用する運営スタッフによる打ち合せ会議を行い、「ぶんきょう にこにこルーム」が地域の子育て親子の居場所として機能できるよう努めている。
- 学生は、幼児教育学科を中心にゼミや授業の空き時間等に参加し、子育て親子と直接触れ合う体験を通じて多くを学んでいる。